

豊平区 持続可能な町内会を考えるシンポジウム 基調講演

令和5年11月14日（火） 18:00～

月寒公民館 1階 体育室

みなさん、こんばんは。

今ご紹介いただきました㈱グローバルデザインの酒本（さけもと）でございます。今日は40分ほどお時間をいただいておりますので、「持続可能な町内会」というテーマで少し皆さまに話題提供させていただきたいと思います。

今日のシンポジウムは、持続可能なというふうに聞いていますけど、なぜ今、町内会、持続可能になっていくタイトルがつくかっていうことを、皆さんと一緒にちょっと考えていければというふうに思います。

資料は、お手元にありますのとスクリーンと同じものでございます。ただ、資料が70ページくらいあって、これ全部説明すると皆さん帰れなくなるので、少し飛ばしながらポイントだけご説明したり、お話をしていきたいと思います。その辺ご容赦いただきたいと思います。もし、ご質問などがあれば、後でしていただければというふうに思います。

先ほど区長からご紹介いただきましたので、この辺飛びますが、今ですね、我々私も含めて、札幌市と10年以上、町内会活性化のお仕事をさせていただいております。全国で、こんなまちづくりをやっているコンサルタントはないということで、いろいろな自治体、全国からお声がかかって、今日みたいなワークショップをやらせていただいております。

その中でやはり共通している課題がございます。後で出てきますけど、全国町内会・町会・自治会の読み方は、自治体によって全然違うんですけど、課題が大きく二つ。

一つは「加入率の低下」、それからもう一つは「担い手不足」ということで、これが持続可能な町内会を考えなければいけない大きな課題だと私は思っています。それを考えるために、今日は4つ話題提供させていただきます。

町内会の価値・必要性ってなんだろうという話と、豊平区の町内会の状況、それから取り巻く課題とか現状ということをお話したいと思っています。そして加入率もお

話をしたいんですけども、今日は担い手の方を重点的にお話しさせていただきたいと思っています。

早速ですが、町内会の価値と必要性ということで、札幌市は条例もできています。町内会が必要だということなんですけど、皆さんの町内会の活動が、それぞれ地域の価値を高めるということになっていると思います。

この辺ちょっと飛ばしますけど、例えば我々一緒に考えました横浜市の港南区美晴台（こうなんくみはるだい）という、こっちでいう町内会、向こうは自治会と呼んでますが、美晴台の自治会では、こういった写真のようにお子さんの活動をいっぱいやるわけですよ。

実際、自治会は担い手不足で、私どもがお邪魔していろいろとお話を聞いたところですね、「会長が決まらなかったんだよ。役員が少なくて」というような自治会なんです。

ただ写真で見ていただいたとおり、お子さんのためのいろんな活動をいっぱいしているので、例えば、ハロウィンのイベントだったり、それから子どもたち集めてワークショップをやったりという、いろんな組織が自治会と連携してあるわけなんですけど、そういった子どもたちの活動がすごい盛んに行われているので、「うちの地区は住みやすい。美晴台は子育てに良いまちだ」という噂が学校でたった。そこをスタートにですね、50年以上経った古い住宅地ですから、空き家が当然ポツポツとでるわけですよ。

そうすると、空き家に子育て世代がどんどんリノベーションして、改修して住んでいく。なので、美晴台の自治会の方が言っていたのは、「うちは空き家ないから」と。

周りの地域に比べて、空き家がないことということは、不動産取引が非常に盛んに行われるということですから、「周りの地域に比べて、酒本さんが言うとおりの、不動産価値が高いんだよね、価格がはつきり高い。」とっていました。

ちょっといやらしい話ですけど、皆さんの活動をこのように計算するとある程度金額が出たりするんですけど、こういったかたちで皆さんの活動は、実際にお金は生みませんけれど、皆さんの活動が「あの地域が良いよね。豊平区の〇〇町内会がすごい住みやすいよね。お子さんにとっていいまちだよね。」っていうようなことになれば、きっとそこは地域の価値が上がっていくというふうには考えられるのではないかなと思います。考えられるというか実際にそうです。

それから我々、ハウスメーカーさん、住宅メーカーさんと新しい住宅地のコンセプト

と一緒に考えてください、というお話をいただきます。

そのときに、大手の住宅メーカーさん、ハウスメーカーさんは必ず「町内会作ろうよ」と（言います）。それはどうしてかとお尋ねしたことがありますけども、「町内会が新しい住宅地の価値、コミュニティがあるかどうかですごく大事なんです。販売するときすごく大事なですよ、酒本さん。だから酒本さんたちと一緒に町内会を作りたいんだよね。」

単に家を建てて売るっていうことではなくて、大手のハウスメーカーさんはそこまで考えてやっています。ある大手ハウスメーカーさんが大規模の住宅地を開発したときに、そこに社員を5年間住まわせて、町内会が根付くまでその社員を引っ越しさせず、1人ちゃんとそこに住まわせてですね、町内会運営をやらせたという話もございます。

そのぐらいハウスメーカーさん、住宅メーカーさんは、そういったコミュニティというものを大事にしているということかなと。

それが、結局価値なんだってことですよね。差別化を図るための価値なんだという。皆さんの活動は、結局はそういうこと。これは見えないし、実際にお金が入ってくるわけじゃないですけど、地域の価値を高めるということに繋がっているというふうに思っています。

2つ目、豊平区の町内会の概要。町内会の概要の前に豊平区を見てみようかと思って、まず人口ですが、札幌市の人口は減り始めていますけど、今年の段階ではまだ若干人口は増えているという状況です。それから、高齢化率は多いところで30%を超えているかと思いますが、平均でいうと25.8%。これ何かというと、豊平区は結構若い人が多い。全体的にですよ。町内会によっては高齢化が進んでいるところもあると思いますが、全体的には若い方が結構多いのかなと捉えられると。

町内会の現状というところ、289町内会がありますね。9の町内会連合会ということになっています。加入率はというと67.1%。ただ、加入率だけを町内会の活性化の指標と考えるのはどうかと思いますけど、一つの指標でございます。

それで、10区の中では、残念ながら3番目に低い。これはこうやって見ていただくと、1番加入率が高いのは南区。南区の人口を世帯数で割ると、1世帯あたり2.2人ぐらいなんです。要は、家族で住んでいる方が多い。

豊平区は（人口を世帯数で）割ると、1.8人ぐらい。要は1人暮らしの方が、きっと他

の区よりも多いのだと。これは中央区もそうです。なので、そういった方々は、どうしても町内会に加入しないとか無関心になってしまうという傾向がありますので、どうしても加入率が低いのかなと思います。

札幌市の加入率が、約 20 年前は 75% だったのが今は 69.4% です。豊平区も、ちょっと変化がありますけど、それより若干低いと。

全国的にどうかと、我々がお手伝いしている町を少し並べてみました。仙台市が一番高く、そして札幌市、宇都宮市、緑が函館市で 50% くらいになっています。それから、今年からいろいろとお手伝いしている大阪市が加入率 50% を切っているということで、こういった状況があって、全国的に加入率がぐんと上がっているというのは、残念ながらないという状況ですね。

豊平区を見ると、札幌市よりも若干低いので、宇都宮市よりは高いというような状況になろうかなと思います。

ただ、この間大阪市でちょっとお話しましたが、50% 切ると、なかなか地域コミュニティのいろいろな情報を伝えるのは町内会だけでは厳しいね、という話がちらっと出ていましたので、50% を切ると結構苦しいかなという、これは個人的感想ですが、そういう気はしていますので、これからいろいろなことをやっていかなければいけないと思います。

こういう中で、豊平区は「町内会に加入しましょう」というパンフレットとか、町内会ごとのリーフレットを作成して、加入促進を一生懸命やられているという話を聞いております。

こういうのいいですね。若い方が、例えば引っ越しをしてきたときに、こういったリーフレットがもらえれば、自分が住んでいるところはこんなところなんだ、というのがわかるかですね、そうするとちょっと地域に親しみをもっただけののかなという感じをしております。こういったものを積極的に使って、というふうに思います。

町内会加入率を高めるためには、やっぱり訪問して、こういった冊子を差し上げて、お声をかけるというのが一番の基本かなと思います。こういったものを作ってどんどんお配りするのがいいのかなと思います。

また、こういったニュースレターですね。活性化に向けたニュースレターということも、どんどん情報発信をしてください。これは後で話しますが、町内会の情報がなかなか届かないというのが現状でございますので、こういったいろいろな手段で、

情報発信をしていただきたいなと思います。

町内会を取り巻く現状と課題ということで3つ目でございます。

町内会が関わっている地域コミュニティと言われるところで、今どんなことが起きているかというのを、皆さんで確認したいと思います。

町内会の皆さんは、たぶん、高齢化社会の中で、周辺のご近所さんの高齢者の見守り活動なんかをやってるんじゃないかなと思いますし、災害時、防災のための訓練なんかもやっているかと思います。

私は、残念ながら豊平区ではなくて、手稲区なんですけど、総務部長をやらしていただけてますけど、うちの小さな町内会でもやっぱり残念ながら孤独死みたいなのが数年前にあったりしましたので、見守りどうしようとか、災害が起きたらどうやって避難しようという訓練をやっております。

こういったことを皆さんの町内会でもやられていると思いますが、今少子化とか子育てというのが大きな社会課題になっています。これも、行政が一生懸命施策を打っていくんですけど、最後はですね、きっと地域コミュニティが関わらないと、なかなかできないことっていっぱいあるかと思います。

それから、孤独というテーマ。これはコロナがありましたので、これが増えています。後でちょっとお話をしますけども、こういったことも我々地域コミュニティの課題として浮かび上がってきます。

それからヤングケアラー、子どもが介護するというような社会課題も見受けられるようになってきたり、皆さまの町内会とかもあるかもしれませんが、会館運営が赤字だという。札幌市とも一緒にやってますけど、ある他の自治体でもどうやったらいいのと相談を受けております。

こういった課題がいっぱいですね、少し前までは、この4つくらい（暮らし・高齢者支援・安心安全・防災体制）を町内会が頑張っていたというところに、今、本当に数年間は、子育てのことも頑張らなきゃとか、町内会がコロナで収益性が落ちてしまったし、加入率が下がれば町内会館の運営に回せるお金も少なくなるとか、いろいろ課題があるのではないかなと思います。

それから、コミュニティの場、若い世代が今こういうこと（孤独などへの対応、コミュニティの場づくり）を求め始めているので、どんどん（課題が）増えていると考える

と、役員の高齢化とか、加入率が低下している、担い手もないという状況の中で、今、コミュニティを支えている皆さんのところに、どんどん課題が増えてきているのかなど。結構辛い状況を受け始めていると。なので、全国きつと持続可能な町内会を考える時期になっているのではないかなと思います。

それで加入率の低下と担い手不足の要因を少し（説明します）。全国で我々ワークショップをやらせていただいて、その要因を考えるとということをやったりしましたので、その中から代表的なものをピックアップしております。

上の5つが何で加入率が低下するんだろうという要因です。それから、下の4つが担い手不足の要因とお考えください。

例えば、愛着がない、必要性を感じない、町内会に入ると何かやらされるという負担感とか、町内会の人たちって何かお金使い込んでいるんでしょう、みたいな。

これは皆さんのことではなくて、インターネットとかを見ると、残念ながら町内会にそういった不信感を抱いている方もいらっしゃるということで、こういった話が出てきます。

それから若い世代は、加入のきっかけがない、引っ越しをしてきてから、何も町内会からアプローチもないし、いつ何が行われているかもわからないし、情報が不足しているし、加入のきっかけがないというお話を、若い方だけでワークショップをやるとよく出てきます。

それから、こちらが担い手不足の要因で、役員の方の負担が大きいといったイメージであるとか、閉鎖的であるとか、ニーズとの乖離、必要性を感じないということと、情報。こういったものが共通している。

これらをちょっと組み合わせながら考えると、札幌市が条例で示されている町内会の位置づけとは異なる状況が起きているのではないかなど。

（町内会に）入ろうとする方、非会員の住民からすると、こういうふうに見えるということですよ。自分たちが希望する活動や事業が、残念ながら無いな、少ないな。だから加入しない、だから町内会と関わりたくない、関わらない、ということですね。

それから真ん中、閉鎖的な組織。これはですね、皆さんがそうしてるわけではないです。外から見たら、閉鎖的に見えるということですよ。

例えば、長い間、同じメンバーで町内会を運営せざるを得ないですよ、担い手がないので。そうすると、外側からみると、いつも同じ人で町内会を運営していて、とて

も閉鎖的なイメージに感じられる、ということです。

これはどっちがどうってということではなくて、そういう風に見えてしまうと、先ほども申しました、ちょっと不信感を抱いてしまうというようなことに繋がっていく。そうやって見えるということですね。

それから情報が発信されていないとか、若い方から見れば SNS で情報が発信されていないね、というようなことを、これは外側から見るとそう見えてしまうということなので、この辺を少し変えていかなければいけないのではないかなと思います。

それから、大きな課題がここでございます。今日は後半ワールドカフェで話し合っていたきたいのはここなんですが、今町内会の役員の方々、どうしても 70 代の方が中心、もしかすると 80 代の方も活躍されているかと思います。

残念ながら、ちょっと辛口で言わしていただきますけど、昭和の町内会全盛期を知っている世代なんですよね。昭和の全盛期って昭和 40 年代とかです。

町内会っていつからできたか、皆さんご存知ですか。

戦前です。隣組制度ってやつができますけども、「回して下さい、回覧板」という歌あるじゃないですか。あれは、戦前の歌ですから、その頃に町内会という組織がはっきりできたと。これいろいろな説がありますがけれど、そこから始まって 80 数年経っている組織です。

1 番の全盛期は、まだ日本が高度経済成長のときの、町内会でバス旅行、まだ皆さんが車を持っていないまだ普及しない時代ですよ、町内会でバスを仕立てて、みんなで旅行に行くことが楽しみだったり、運動会が楽しみだったり、というような昭和の全盛期の町内会のことを知っている世代の方々が、今、町内会役員をしている。

なので、今住んでいる、もしかすると 30 代・40 代の方々とはちょっと感覚が違う、地域コミュニティに求めることが違っている、昭和 40 年代のイメージ運営でされているかと思います。

それからこちら（住民）が、そういったことを知らない方々だとするならば、そこにちょっと意識の違いが出ているということかもしれません。

ただ、この人たち 30 代・40 代、若い世代の 20 代が、地域コミュニティを求めているかという、すごく必要としているんですね。特に子育て世代の方々は、地域コミュニティの力を必要としています。これは、後でお話しします。

なので、全ての町内会がと言いませんが、もしかすると 30 代・40 代、20 代の方々と

あまり交流がなくて、こちらの人たちのニーズがわからないので、どうしても自分たちが知っているイメージで町内会を運営される。ますますここの意識の違いがでてしまうというのが、今起きていることではないかなと。

なので、こちら（住民）で必要としている活動は、ちょっと昭和の時とイメージは違いますし、情報の発信の仕方も、残念ながら回覧板だけではもう伝わらないというのが現状かなと。

ここを今、ぜひ関係を作って、つながりを作っていないと持続可能になっていかないんじゃないかと。ここのつながりが無いから、加入率が低くなったり、担い手がなかなか見つからないっていうのが、今起きていることではないかなと。

ある町で、「町内会は、高齢者による、高齢者のための町内会になっていませんか」という風に、ある自治体で講演させていただいた時に、皆さんショックを受けて帰ったという、後で報告がありましたけど、そうっていないか皆さんももう一回考えていただければと思います。

それで、これから持続可能な町内会に向けて、3つ考えていきたいなと思います。

まずは、住んでいる方に必要性を実感していただけるということ、それが1番。ニーズに対応したという。

それから、どうしても閉鎖的なイメージ、外から見るとそう見えてしまうので、オープンな運営を意識的にやっていかなきゃいけないし、気軽に参加できるという体制も作っていかなければいけない。

それから、回覧板だけでは情報は伝わらないので、デジタルも少し入れましょう。これは、皆さんが頑張る必要はないので、後でちょっとお話をしますけども、いろいろな方の力を使いながら、やっていく必要があるかなということなんです。

それでまず、必要性を感じてもらえるものにどうやってしていくかという話を簡単にします。

今日、後でワールドカフェでもチェックしていただきますけれど、高齢者中心の活動になっていないか改めて検証しましょう。

それから子育て世代のニーズをしっかりと把握しましょう。大体、地域コミュニティで、地域コミュニティの力を必要とする3つの世代というのがありまして、1つはお子さんです。例えば通学路の安全の旗を振ったりとかやられていると思うんですけど、ああい

ったように子どもたちのサポート・支援、遠くから見守ることも含めて、やはり子どもたちは地域コミュニティの何らかの力が必要です。

それから、2つ目の世代が子育て世代とされています。これちょっと後でお話しますね。

それから3つめが高齢者。

この3世代は、地域コミュニティのサポートが必要というふうに言われている3世代。ただしですね、今増えているのが孤独を感じる若い世代。これ、コロナでぐっと上がりました。だって、大学・学校に行かないでしょ。1人でオンラインで授業受けていた、オンラインで仕事をしていた1人暮らしの人、豊平区にいっぱいいるはずですよ。そういった方々が、孤独を感じている。

今コロナが少し収束して、私もマスクをしないで講演してますけど、その後もやっぱり孤独を感じている人がたくさんいるということです。

それから賃貸住宅をどうするんだってというのは、結構豊平区においては大きな課題かなと思います。

こういったことを少し取り組んでいく必要があるかなということで、これ後でしてもらいますので、ここちょっと飛ばしますね。レーダーチャートなんかで、自分たちがやっている町内会活動をもう1回評価してみましょうということです。

それから、これはある札幌市内の町内会でやりましたけれど、行事のカレンダーを作ってみて、それに誰が参加しているのかということ、町内会アドバイザー派遣制度の中でやらせていただきました。そしたらですね、4月総会とかありますよね、5月健康体操、6月お祭りとか8月カラオケ大会…とって、誰が対象といたら、高齢者、高齢者、高齢者ばかり。さすがに町内会アドバイザーで話していた役員の皆さんも「これは無理だね。これじゃあ若い人入ってこないね。だって高齢者ばっかだもんね。」と言って、じゃあ若い人向けに何かやっぱりやらなきゃ、という風にちょっと意識を変えていただきました。クリスマス会ぐらいしか子どもの行事なかったんですよ。

皆さんのところは大丈夫ですか。

うちの町内会も、小さな町内会なのですが、一時子どもの姿が見えなくなって、みんな大きくなって独立して、いなくなっちゃったんですけど、この7、8年ぐらいですかね、僕が総務部長になった時ぐらいから、アンケートを取ったらお子さんがいることが

段々わかってきたんですよ。増えてきていると。今、増えてきているんで、一時全部止めていた子どもの行事をまた復活して、10月はハロウィンかぼちゃのランタン作りとかやっていましたけど、そういった感じで、時代が変わっていったときに、お子さんがいないから止めようとなったものが、また入れ替わって増えてくることがあるので、その辺を注意深く見ていくということも必要かなと思います。

それで若い世代の方々のニーズ、ここを見ていただきたいんですけど、「子育てにおける孤独の解消」。産後は社会から切り離されて、一日中子どもと二人のことが多い。身内が近くにいない、ご両親が遠くにいるので、なかなか相談するとか預けるとかということができないので、こういったことを、できれば町内会の人たちをお願いしたいとか、助けを借りたいんだよねというニーズがすごいです。子育てサロンじゃないですよ。こういったご近所付き合いですよ。こういったところをどうケアしていくかということですね。これはすごく大事なかなと。

数年前に、札幌市の子育ての担当の方と話をしたときに、「子育てサロンに出て来れるお母さんはまだいい。出て来れないお母さんが悩みが多いので、そこを近所の方が見守ってあげるといことがとても大事よね」という話をされていました。こういうニーズがあるんですよ。

今まで、子育てとかあまり関係ないかなと思ってたんですけど。

例えばうちのスタッフがある町で、こんな風に子育て世代の方々に集ってもらって座談会をやりました。そうするとやっぱり同じようなニーズが出ます。

それを聞いていた年配のお母さんたちが、「それだったら私たち手伝ってあげるわよ」と言ってそれをくっつけた、というような話をやっていたりしました。

こういったことをぜひやってみてください。

それから、これがさっき言った孤独を抱えている若者の割合です。見てください、これ60代以上は23.7%ですよ。20代が一番多く42.7%。半分近い方が孤独だというふうに感じている。これコロナ禍の中、入り口くらいの時ですから、なおさら数字が高かったんだと思いますけれど。

我々、札幌市のまちづくり戦略ビジョンのワークショップ、札幌市のまちの将来を考えましょうというワークショップを2か年やらせていただきましたけど、「孤独」という

キーワードが20代30代からすごく出るんですよ。

自分も長い間まちづくりに関わっていて、そういったことはあまりなかったんですけど、この2年間で、若い人たちから「孤独」をこんなに聞いたのは初めてです。

「じゃあどうしたらいいですか」というふうに聞きます。そしたら必ず言うのが「コミュニティの場が欲しいんだ。ふらりと立ち寄って、あまり濃い話ではなく、誰かとちよっと会話するような場所があるといいですね。」ということが出されます。

ここもこれから町内会で考えていかなければいけない。こういったサロンみたいなどころですね。それからこういったカフェですかね。こういった場所をコミュニティが少し考えていかなければいけないときになったかなど。

豊平区の旭水会館ですね。

これは全国でこの話をするすると皆さん食いつくんですけど、町内会館で居酒屋やってますと言うと、「え、そんなことできるの?」「どうやってやっているんですか。」と必ず質問が出ます。すごい事例ですね。今週の土曜日もあるんですね。

ということで、こういったコミュニティの場を、ダメ元ではなかったと思いますけど、作るということがすごく大事かな。これが、(胆振東部地震の)ブラックアウトの時に、非常にこの会館が機能したというお話を聞くと、こういったことを今考えていかなければいけない。

これ、昭和の町内会にはなかったと思いますね。こういった発想がすごく大事かなど。コミュニティの場、若い人も来ているということですから。

あとは若い人向けのイベント、小さなものでいいと思います。小さなことでもいいので若い人が町内会というものを知るきっかけを作っていただきたいなと思います。フリーマーケットみたいなものでもいいと思います。こういったものを作っていく。

それから賃貸住宅。豊平区は多いと思います。賃貸住宅・分譲マンションの方が、コミュニティを必要としていないかという、そんなことはないと思います。

例えば、マンションにお住まいの方も、たぶんブラックアウトの時は水で苦労しただろうし、トイレで苦労しています。なので、町内会から、一緒に防災、災害時の訓練をしませんか、というアプローチもあると思いますし、マンションにもしお子さんを抱えている世代がいらっしゃれば、子どもの安心・安全を一緒に考えませんか、と。

いきなり町内会に入ってくださいということではなくて、住んでいる方が抱えている

テーマを一緒に考えましょうというアプローチがいいと思います。

もう17・8年前でしょうか、札幌市のまちづくりセンターアドバイザーというものをやらせていただいて、あるまちづくりセンターからお呼びがかかりまして、その時の課題が、「マンションがいくつも立ち始めて、マンションの方々が町内会に関心を持っていただけないんです。」というお話をいただいたので、「マンションにはどんな人が住んでいますか」とお聞きしたら、「小さなお子さんを抱えているお母さんたちがいっぱいそう」と女性部の方が言ったので、じゃあダメ元でこの会館で子育てサロンもどきをしましょう、という話をさせていただいた。

まあ1～2組、3人くらいのお母さんが来ればいいんじゃないですかみたいな話でやったら、自分は当日行けませんでした。女性部の方から電話がきて、「酒本さん、大変だったんだよ。」「誰も来なかったの?」「違う、逆。すごい来て大変だった。これを町内会でやっているんですって言ったら、じゃあぜひ町内会入りますと言ってくれた。」

そういうことです。住んでいる方にあわせた小さなことをやってあげると関心を持ってもらえるということかなと。これは防災訓練ですね。

それから、町内会アドバイザー派遣事業でよくやるアンケート、住んでいる方にアンケートをやります。それは、うちの町内会もう役員がいなくて数年後に困ったことになり、という課題を共有することとか、どんな活動が必要かとか、そこから見直しをしたり。

アンケートというのは、役員の方が知らない、役員をやってもいいという方を発掘できる可能性があるということが一番大きいかなと思います。

札幌市のとある町内会で、担い手不足で町内会解散をいったん検討したところがあります。役員同士では、もう解散しよう、次もうやってくれる人いないし、と。

町内会アドバイザー派遣事業で我々がお邪魔して、まず、本当に皆さん解散してもいいと思っているのかな、ということで、アンケートをやらせてもらった。そうしたら、1割くらいですね、解散してもいいというのは。

いくつかの町内会でも聞いていますけれども、解散してもいいというのは1割程度しかいません。役員の皆さんがそんなに大変だったら、負担を軽くして何とか継続してほしいという方が5～6割です。あとわからないが3割くらいですね。だいたい平均する

とこんな割合です。

こういったかたちでアンケートとりまして、そうしたら、ちょっとくわしい話は飛ばしますけど、役員まではできないけれど何かお手伝いできますよ、という方が、アンケートをやった町内会全部で出てきます。そういった方々が必ず出てきます。そういった方を我々サポーターという風と呼んで、サポーター会議をやって、「町内会こんな状況なんだよね。じゃあ何か我々でやることやりますか。」みたいな感じでやったのがハロウィンです。

30代・40代の子育て世代の方が、じゃあ我々子どもたちのためにハロウィンのやつやります、と。今までその町内会ではハロウィンなんてやっていないんですよ。

ハロウィンイベント、60人くらいのお子さんと、全部入れると90人くらいで、なぜかテレビの取材も入っちゃったということで盛り上がり、じゃあ次クリスマス会やろうか、ということで、クリスマス会。

これは、コロナ禍の中だったので、明日コロナが増えたら、明日クリスマス会が中止ということがあり得るということで、若い人たちはLINEで募集した。回覧板は回したけど、LINEで申し込みを受け付けますということにしました。なぜかというと、明日中止にしますという情報をお伝えできるのはこういったSNSじゃないとできないので、LINEで申し込んでくださいということをやりました。

えー？というふうに思いますよね、町内会の方は。

それからコロナ禍なので、去年ですからまだ収束するかしないかですよ。なので、町内会の役員の人たち、何かあったら大変だから止めた方がいいんじゃないの、みたいな話がやっぱり出ます。感染者が増えたり、これをきっかけに子どもたちがコロナになったら大変だよな、と。

「それを言われちゃったら何もできないのでどうしますか。」と聞いたら、若い人たちは、「なんとかやりたいですよね。」とおっしゃっていたので、役員の方に「じゃあ実行委員会というかたちでどうですか。町内会主催でやると、役員の皆さんがご心配していることを、やはり役員でやらなければいけない。でも、30代・40代の人たちが自分たちの責任でやりたいと言っているんだから、実行委員会でやってもらいましょう。もしかしたら人が来ないかもしれないし。」「それだったらいいけど。」「ただ、子どもたちのお菓子代くらいは出しましょうよ。」「それだったら全然いいよ。」という話でやったところ、当初20人来ればいいのかと言っていたところ50人くらい来て、急に1部と2部

に分けてましたけど、そういったかたちでやっていました。

思った以上に人が来るし、また、ここに参加したお父さん、お母さんが、じゃあ町内会のことを協力しますよ、と言って、サポーターと言われる人たちが今イベントごとに少しずつ増えています。そして、ここにいらっしゃる彼は総務副部長になられています。

役員の皆さん、どうしても役員をお願いする誰かという、自分の知っている方もしくは知っている方の知り合いくらいですよ。そのくらいまでが限界だと思うんですよ、お声かけるのは。ただ、アンケートだと、知らない方、役員の方が直接会ったことがない地域の方で、地域に貢献したいとか、やれるときにやれる範囲で手伝いますよという方とか、地域の方、コミュニティの方を必要としている子育て世帯が手を挙げてくれる可能性があるということです。なので、アンケートをうまく使っていただければと思います。

2つめです。オープンな運営と気軽にとということです。

これはもう皆さんやられていると思うので、ポイントだけお話しします。

こういったパンフレットは豊平区でいっぱい作っているのです。

ここです。全員役員は無理です。30代・40代・50代の現役の人たちが、今日お越しの皆さんと同じように役員をやるというのはなかなか仕事があって難しいので、やれることをやれるときに楽しく、こういったサポーター制度を作っていただいて、登録していただくと。

そして何かやりたいとか、そういった時にお手伝いをいただくというようなかたちを作っていただくのがいいかなと思います。

最初は3人かもしれません。4人かもしれません。でも30代・40代の人たちが企画して何かイベントをやると、そこにまた同世代が来ます。このくらいだったら手伝えるよ、と言って、輪が広がっていきますので、こういった仕組みをぜひ作っていただきたいと思います。

あとは、オープンな運営ということで、ここに書いてあるようなことを考えていただければと思いますが、私が強調したいのはここです。各世代から役員をできるだけ選んでいただきたい。

例えば、30代・40代の人たちが考えていることというのは、なかなかわからないと思います。全然違う企画もしてきますので、できればこういった人たちをうまく巻き込ん

でというか、役員に入れていただきたい。

1人だけ1本釣りしようとするとなかなか抵抗が大きいので、2～3人仲間を連れてきていいからみたいな感じで入っていただけるようにするのがいいかなと思います。

そして3つ目が、どこの町内会も結構取り組んでいると思いますけど、デジタル化と言われることですね。

役員会の連絡をLINEを使ってやりましょうという、私の町内会です、これ。この TENT を買うことになったけど、このサイズでいいかなと聞いているわけですよ。「いいよ」「いいよ」とやっている。コロナがあったので、直接会わないでもいろんなことが話し合えるようにということで始めました。使ってみると便利です。

あとは、情報発信ということでSNSを使いましょうということ。ただ、1個やればいいということではないです。これが複雑で、10代・20代が使うSNSと、20代・30代・40代が使うもの、50代・60代・70代が使うものは若干違いますので、どの世代に情報を発信したいかで全然使うものが変わってきます、ということだけ覚えておいてください。

子育て世代の方々は、SNSから情報を取っています。20代・30代、うちのスタッフもそうですけど、新聞取っていないですよ。それから、もしかしたらテレビも持っていないですよ。みんなネットで情報取るので、そういった世代に回覧板だけで情報はもう届かないと思った方がいいと思います。なので、いろんな方法で町内会の情報を発信してください。

これは去年札幌市とやった町内会電子回覧板ですけど、LINE公式アカウントというのを使って情報発信してあげるといこともこれから大事なかなと。

回覧板をなくせということではないですよ。回覧板とあわせて、いろんな方法で情報発信をしてくださいということです。

それで、これを町内会の方が全部やるのは大変だなと思います。なので、これがきっかけです。誰かくわしい方を何人か入れる。

「ごめん、俺たちSNSくわしくないからさ、そこだけ手伝ってくれない。」と言ったら、高校生とかは、大喜びまではいかないけど、手伝ってくれると思います。そこに多少の図書券をあげるとかあってもいいのかもしれない。

「ごめんね、SNSわかんないからちょっと手伝ってよ。町内会のイベントの写真を

Instagram にあげてほしいんだよね。町内会の LINE わからない人たちに教えてあげる研修の講師やってよ。」というように、高校生・大学生にお願いしてみるのはいかがですかね。

その時に、例えば町内会長の名前で「あなたは〇〇町内会の活動を一生懸命やってくれましたね。」と1枚賞状を出してください。賞状というか証明書。それが高校生にとっては、もしかしたら大学入試のPR材料になるかもしれないし、大学生にとっては就職活動のPR材料、「僕は町内会のこんな活動、地域貢献してきました」というPR材料。

やらせっぱなしではなくて、そういった証明じゃないですけど、こういったものを1枚出すだけできっと違うのではないかなと思います。

大学生が企業の面接で、「あなたは4年間何をやってきましたか。」「社会貢献とかどうですか。」と聞かれたときに、「自分が住んでいたところの町内会のこんな活動をサポートしました。その証明がこれです。」みたいに見せられるいいんじゃないかなと思います。

以上が今日の話提供でございます。

私が強調したいのは、いろんな課題、それぞれの町内会さんで違うと思います。今、持続可能な、担い手不足それから加入率の低下で、町内会をこれからどうしようか、どうやって持続していこうかっていう、これは全国共通した課題・お悩みだと思います。その時に今もう一度、住民の方々のニーズをしっかりと考えて、活動を少し変えていくということがすごく大事なかなと。

特に若い人とのつながりを作っていただきたい。これは、町内会によっていろいろやり方は違うと思います。先ほど見ていただいたのは、若い世代の方々何人かのでいいので集めて、座談会みたく気軽にお話をするとか、そこからニーズを捉えて、じゃあこういうことをやればいいのね、こういうことを一緒にやってよ、というようなところから、町内会に少し若い人に関わっていただくというのがすごく大事なかなと思います。

今、どこの町とは言いませんけど、切れかかっている、町内会の役員の人たちと若い世代のつながりが全くなくなってしまって、ちょっとまずいなっている町もございます。

豊平区の町内会の皆さんはそうならないように、ぜひ、現役世代、若い世代、子育て世代とつながりを持ってですね、持続可能な町内会にしていただければというふうに思います。

皆さんからアプローチしないときっとつながりはできないと思いますので、お願いし

たいなと思います。

それでは私の話題提供は以上でございます。ちょっと時間オーバーしたかもしれないです。どうもありがとうございました。